

# 明治 30 年代・弘前女学校卒論の テキストマイニング

片瀬 一 男

## はじめに

1873 (明治 6) 年, 明治政府は, 太政官布告第 68 号により, キリシタン禁制の高札を撤去し, 江戸時代初期 (1612 年の禁教令) 以来つづけられてきたキリスト教の禁教政策に終止符が打たれた。キリスト教禁教が解かれた年, 横浜居留地のオランダ改革派教会牧師・ジェームス・H・バラ (James H. Ballagh) の英語塾で学んだ 9 人の日本人青年が受洗した。その中には, 井深梶之助 (明治学院創設者), 本多庸一 (弘前女学校創設者・青山学院第二代院長), 押川方義 (東北学院・宮城学院創設者) らがいた (東北学院百年史編集委員会 1989, 弘前学院百年史編集委員会 1990)。彼らは横浜バンド<sup>(1)</sup>と言われ, 明治期のキリスト教界で主導的役割を果たすとともに, 各地にミッションスクールを設立し, 後進を育成した。またそれを通じて地域文化の近代化にも寄与していった<sup>(2)</sup>。

## 1. メソジスト派とリスpekタビリティ

本稿では, こうした明治期の女子キリスト教育を, 弘前女学校に残された明治 32~35 年の「卒業論文」を手がかりに扱うが, その前に 1つ確認しておく必要があることがある。それは, 弘前女学校が創設者の本多庸一以来, メソジスト派に立脚したミッション教育を行ってきたことである。

そもそもプロテスタント各派の中でも新興宗派に属するメソジスト (Methodist) 教会とは、18 世紀にイギリスでジョン・ウェスレー (John Wesley) によって始められた宗派であり、キリスト教の信仰復興運動 (リバイバル運動) の中核をなす主張であるメソジズムにもとづく教会である。メソジズムとは、日課を区切った規則正しい生活方法 (メソッド) を推奨したことからそう呼ばれるようになった。そして、規則正しい生活が実践できているかどうか、互いに報告し合う少人数のミーティングを重視した。このため学校と親和性が高く、ミッションスクールにおける教育、貧民救済などの社会福祉にも熱心である。とくに教育の機会に恵まれない子どもたちに一般教育を与える日曜学校の運営に熱心で、上流階級よりも中下層階級の信者が多かった。なお、かつて日本では美以教会とも言われていた。

この時期の信仰復興運動に見られた福音主義では、モッセ (Mosse 1988 = 1996: 12) によれば、あらゆる日常的義務は神聖なものと考えられ、たとえば「男女の性的関係からは官能性がはぎ取られ、結婚や家族は信仰の共同実践にもとづくもの」ととらえられ、罪は「自らの天職に一意専心没頭すること」で贖われるとした。この点で、メソジストの教えは、ビクトリア王朝 (1837 年から 1901 年) の信仰復興運動の基盤となったリスペクタビリティ (市民的価値観) の先駆的形態であるとみることができる。モッセ (Mosse 1988=1996:9) の言うリスペクタビリティとは、「セクシュアリティに対する適切な態度はもちろんのこと、「礼にかなった正しい」作法と道徳をさす用語」であった。

というのも、18 世紀の産業革命において勃興したイギリス中産階級は、18 世紀後半になると伝統的な上流階級 (ジェントルマン層) の「奢侈」や、都市で形成されつつあった労働者階級の「食欲」に対して、自らを差異化する生活様式としてのリスペクタビリティを形成し始める。彼らにとって座右の書は、聖書 (とくに新約聖書の福音書) とならんで、S. スマイルズの『自

助論』であった。この著作の主題「自助」すなわち「天は自ら助くる者を助く」にあるように、勤労者として、あるいは家庭の主婦として「自らの天職に尽くす」ことが神の教えに叶うものという考え方は、この時代の新興中産階級とくに実業家層の支持を得た、とされる（佐藤 1998: 77）。

そして、20 世紀に入って資本主義が組織化されて、刻苦勉励の倫理はリアリティを失うが、「物語」としてのリスpekタビリティはそれでもなお存続した。それは「成功者は自らの地位を正当化する神話として「勤労の価値」を必要とした」からであり、「スタイルとしての「勤勉さ」はリスpekタビリティという規範の中にすでに吸収され、定着していった」のである（佐藤 1998: 77）。

こうしたメソジスト教会は、やがてアメリカにわたり、開拓時代に発展をみせる。この当時、アメリカのプロテスタントでは、メソジストとバプテスタが二大宗派と言われた。アメリカでは 1784 年にメソジスト監督教会が結成される。メソジスト監督教会（The Methodist Episcopal Church）とは、アメリカ独立戦争の際に、メソジスト教会がそれまで属していたイギリス国教会との関係が断たれたので、ジョン・ウェスレーが 2 人の有力な信者に按手礼を施し、監督として新大陸での布教活動の指導を託したことに由来するとされる。

アメリカのメソジスト監督教会婦人海外宣教師協会（Weman's Foreign Missionary Society: WFMS）は、1869 年にこのメソジスト監督教会の海外派遣牧師の女性たちの海外啓蒙活動から生まれた。メソジスト教会はプロテスタント教会の中でも海外布教に熱心な教派であったが、その中でも女性委員会はとりわけ東南・中東アジア（中国・インドおよびイスラム圏）の女性たちの多くが、家庭内に閉じ込められ、行動の自由を奪われている状況を改善することに強い関心を抱いていた。そして、ともにインド布教の経験がある 2 人の女性宣教師を中心に WFMS がボストンで結成されることになった。

日本への派遣は 1874 年より始まり、のちに青山学院となる女子小学校、救世学校、海岸女学校を創設したドーラ・スクーンメーカー (Dora Schoonmaker) が最初の赴任者である。その後、明治の末年までに、83 名の女性宣教師が来日した。そして、東京、横浜、函館、長崎、福岡、名古屋、弘前、仙台、米沢、鹿児島に女学校を設立することで、女子教育を通じて、日本の女性へのキリスト教伝道を行った (斎藤 2009)。このうち、弘前の女学校に当たるのが、弘前女学校である。

## 2 弘前女学校のキリスト教教育

こうしたキリスト教が、地域の教育にどのように受容されていったのかを検討するために、以下では、1899 (明治 32) 年～1902 (明治 35) 年の青森県のミッションスクール・弘前女学校の「卒業論文」の分析を行う。同校は 1886 (明治 19) 年に本多庸一によって、函館遺愛女学校の分校・来徳女学校の名称で弘前教会内に開設された。その翌年、校名を弘前女学校に変え、1889 年青森県知事から私立弘前女学校として設置認可を受けるとともに、校主・長谷川誠三がアメリカ・メソジスト教会婦人海外宣教協会との間に互約書を交換した。

この卒論が書かれた時期、同校は設立 13～16 年を迎えていたことになり、1893 (明治 26) 年改正の学則によって運営されており、尋常小学科 4 年、高等小学科 2 年、予科 4 年、本科 2 年に加えて、地域の要望に答える形で設置された選科 (本科生の中でも和裁・編み物だけの専修科) が特に人気を集めていた。

「卒論」が書かれた 4 年間は、第 7 代校長のエッラ・J. ヒューエット (Ella J. Hewitt) の在任中に限られることから、彼女の教育方針によるものと考えられている (北原 2007)<sup>(3)</sup>。また、教頭は創設者の本多の推挙で旧弘前藩士で青森師範卒のクリスチャン・工藤玖三が着任した。工藤はヒューエットと

協力して、尋常小学校の服装を木綿筒袖とする服装規定や家庭訪問規定（いずれも 1900 年）など学内規定を整備した。この時期はまた生徒数の急増期にもあたり、1900 年には手狭になった元大工町から坂本町の新校舎への移転が行われた。青山学院資料室に残された 1901-02 年の Annual Report にヒューエットは次のように記していた。

新しい建物で学校が始まった時、生徒数は 68 名になりました。平均して 60 名ほどが教会と日曜学校に出席し、その年の間、9 名が教会に受け入れられました<sup>(4)</sup>。

そこで、こうして弘前においてキリスト教教育が発展した時期に書かれた「卒論」の内容を分析することによって、19 世紀欧米のキリスト教信仰復興運動（リバイバル）を背景にして、来日した外国人宣教師らによって行われた福音主義の布教活動が、明治後半の近代国民国家の形成期に良妻賢母教育を志向し始めた女子教育においてどんな位置を占めたか明らかにすることができる。というのも、明治期に日本に持ち込まれたキリスト教（特にプロテスタント）は、海外では 19 世紀のビクトリア王朝期の信仰復興運動（リバイバル）の所産ともいべきものであり、メソジスト派（日本では弘前女学校の創設者・本多庸一が初代監督となる）に代表されるように単なる信仰だけでなく、聖書にもとづく日常生活の規律（儉約・勤勉・礼儀など）という市民的価値観—モッセ（Mosse1988=1996）の表現を使えばリスペクタビリティ—を中核とするものであった。

ただし、弘前女学校の「卒業論文」といっても、卒業当時、15—17 歳の少女たちの手によるものであり、卒業に当たっての自戒や決意（しかしそこにはリスペクタビリティという生活態度が示されている）を述べるものとなっている。「卒論」には、当時の教師による朱筆。添削の跡も残されており、

ミッション女子教育の教育的まなざしも垣間見ることができる。しかも、この卒論が書かれた明治 30 年代は、日本の女子ミッション教育にとって、最初の試練に当たる時期である。というのも、この時期は日清・日露戦間期にあつて、日本のナショナリズムが最初の高揚を見せた時期にあたる。おりしも学校教育も普及し、識字率が上がる中で、新聞読者層も増え、絵入りで報道される戦勝は国民の一体感を醸成し、「想像の共同体」(Anderson 1991 = 1997)としての国民国家が成立した。

こうしたなかで、幕末に諸外国と結んだ不平等条約(安政 5 カ国条約)<sup>(5)</sup>の改正交渉は、明治初年の岩倉使節団以来、断続的に行われ、1899(明治 32)年の日英修好通商条約の発効によってほぼ達成された<sup>(6)</sup>。これによって、日本は治外法権の束縛から解放されることとなり、イギリスと内地を開放しあつて、居住や通行などの自由を認め合い、外国人居留地は廃止されることとなった(内地雑居)。しかし、このことは同時に外国人宣教師に自由な布教活動を保証することでもあつた。そこで、おりしも高まりつつあつたナショナリズムを背景に、文部省は同年訓令 12 号「一般ノ教育ヲシテ宗教外ニ特立セシムルノ件」すなわち学校における宗教教育(具体的にはキリスト教教育)を禁じる訓令を出した<sup>(7)</sup>。

また同年には、良妻賢母教育を標榜した高等女学校令、外国人の経営する私立学校への統制を狙つた私立学校令も出され、女子ミッション教育はいわば四面楚歌ともいふべき状況にあつた。

こうしたなかで、同校はキリスト教教育に対する行政の指導を巧みに脱連結<sup>(8)</sup>(Myer and Rowan 1977)することで、同校のミッション教育を維持し続けた(片瀬 2019)。とくにキリスト教教育に関しては、同校は文部訓令 12 号発令以前、1893(明治 26)年の青森県への学則改正申請時に、県から認可の条件として聖書科を正課から「削除すべし」と求められたが、県視学(学務課長)と巧みな交渉の結果、希望者のみに正課外で教えることで折り合い

をつけた<sup>(9)</sup>。しかし、実際には授業開始前の 8 時に全員を校舎 2 階の裁縫室に集合させ、30 分の礼拝を毎日欠かすことなく行った（弘前学院 1900: 77-84）。こうしたなかで、日本の事情にもある程度通じていた当時の校長・ヒューエット<sup>(10)</sup>が、この学校を巣立っていく生徒たちに、あえて「卒業論文」を課したとするならば、あるいは迫りくるナショナリズムの波に抗して、卒業後守るべき規範（「自警十二則」なり「女子の本分」など）を自覚させようとしたのではなかったのか。

### 3. 卒業論文の内容分析

#### 3.1 教師の教育的まなざし

現存する弘前女学校の卒業論文は、年度によって論題は指定されており、その内訳は、明治 32 年「自警十二則」が 7 編、33 年「女子の本分」が 1 編、34 年「女子矯風会標榜五条」が 6 編、35 年「生徒進歩改善」9 編、合計 23 編である。このうち明治 32-34 年分は 1 冊にとじられ「生徒卒論論文集」という表紙がつけられ、また明治 35 年分は別にとじられ「玉璞 第二類」という表題がつけられている。そして、いずれも弘前学院聖愛高校図書室の地下書庫に保管されていた。

これらの「卒論」のうち、明治 32 年卒論については、卒論の冒頭には評定点があり、末尾に教師による寸評が記されている。「卒論」の内容分析に入る前に、卒論に残された教師のコメントや添削をもとに、当時の同校の教育指導方針を見てみよう。

##### ① 自分の言葉による明確な自己表現の推奨

高い評定を得ている卒論には「言語諄々、善意真実以テ自ラ平生ヲ警ムルニ足ル」「言々肺肝ヨリ出ズ」といった表現で卒論の出来が評価される一方、参考文献を引き写し、自らの言葉で語っていない生徒の卒論に関しては、「恐ラクハ自作ナラサル箇所多カラン」「自己の考

察と自分の筆に成れる分の甚だ少なきを見る」という厳しい評価がされている。ここには、自らの思考を自己の言葉で語ることを強調した同校の教育方針を見て取ることができる。

- ② 「婦徳」との調和：その一方で、こうした「意気」を「婦徳」と調和させる必要性も説かれている。たとえば、「意気軒昂、筆橋鋭利、世の柔弱男子ヲシテ恥死セシムルニ足ル。乞フ之ヲ柔グルに婦徳ヲ以テセヨ」。リベラルな女子ミッション教育への反発が強まってくる中で、女子の「意気」にたいしても、アンビバレントな態度をとらざるえなかった教師の姿勢も見られる。
- ③ 方言の矯正：この時期の卒業論文には、文章に方言による俗語が混じっており、教師たちは文中に朱を入れるとともに、講評でも触れた。「但東北ノ語弊二陥レルトコロ三、四、惜シムヘシ」など。この背景には、この学校から少なからぬ卒業生が県下の小学校教員になることがあったとみることができる。アンダーソン（Anderson 1991=1997）の言うように、「想像の共同体」としての近代国民国家を形成しつつあった明治期日本にあっては、学校教育をつうじて「国家語」による均質な言語空間の創出が施行されたのである。

### 3.2 卒業論文のテーマ

この明治32年の卒論に内容については、北原（2007）が次の5つのテーマに分類している。①日々の生活習慣、②日々の生活信条、③人間関係、④学問や目的実現、⑤キリスト教の教え。そして、ここには第一に女性であっても社会の一員として「天与の職」を全うすべきことという自立志向と、第二に日常生活では女性として「言葉を慎む」ことの重要性が説かれている、という。そして、ここに示された行為規範はいずれも先に述べたリスペクタビリティに重なるものである。

このことをテキストマイニングで確認してみよう。

## 4. 卒業論文のテキストマイニング

### 4.1 テキストマイニングとは何か

テキストマイニングとは、「質的データの中でも特に文章型すなわちテキスト型のデータ分析をする方法」で「コンピュータによってデータの中から自動的に言葉を選びだし、さまざまな探索的分析を行う」ことで、「データのパターンやルールひいては知識の発見をめざすもの」（樋口 2020: 1）をいう。その適用範囲は広く新聞記事から文学作品まで及ぶ。例えば、漱石の『こころ』については、従来から先生の自死が唐突であるということが問題視されてきたが、樋口（2020）は「先生の遺書」の前までの先生の発言を分析し、作品の前半部で先生が死を暗示する言葉を何度も使っていることを明らかにした。また、『源氏物語』については、巻末の「宇治十帖」が登場人物や舞台が他の帖と著しく異なることから、紫式部以外の者の手になるのではないかという疑惑がもたれてきた。これに対して、土山・村上（2014）は、宇治十帖の主成分分析による形態素分析を行い、その品詞が他の帖の用法とほぼ重なることから、宇治十帖の作者も紫式部である考えられると比定している。このほか、社会調査におけるテキストマイニングの使用例としては、インタビュー記録や自由回答の分析などがある。

### 4.2 KHcorder の利用と近代語辞書の搭載

テキストマイニングを行うためのソフトは、数多くあるが、ここでは社会学での実績のある最新版 KHcorder3（樋口 2020）を用いることにする。このソフトは perl 言語で書かれたフリーソフトであり、テキスト型データの計量的な内容分析とくに多変量解析によって、一緒に出現することが多い言葉のグループや、同じ言葉を含む文書のグループを見ることで、データ中に

含まれるコンセプトを探索できる。多変量解析の手法としては、対応分析(数量化 III 類)・クラスター分析・多次元尺度構成法 (MDS)・自己組織化マップ・共起ネットワークなどに対応している。

ただし、この KHcorder を弘前女学校の卒業論文に適用するうえでは、1 つ難点がある。それは、弘前学院の卒業論文が現代語ではなく近代語で書かれた文語であるのに対して、KHcorder に搭載された辞書が現代口語であることだ。そこで KHcorder の辞書を国立国語研究所が開発したコンピュータ用の近代文語辞書の UniDic = Kindai\_1608 に代える必要がある。さらに現代語と近代語では同じ言葉でも分類される形態素(品詞)が異なるので、KHcorder に標準的に搭載されている形態素分析用のツールも「茶筌」から「MeCab」にかえる必要がある。つまり KHcorder に近代語の形態素分析を補って、近代文語辞書で卒論を解析をすることになる。

では、次にこの方法で本当に卒論が近代語として読めたか確認してみよう。下の表は、卒論に頻出する「如何」という文字が、現代語と近代語の辞書でどのような品詞として読めたかを示している。卒論全体で「如何」という語は 43 回使われているが、表 1 左の近代文語としては形容動詞・名詞で読まれることが多く全体の 88% を占めるが、表右の現代口語辞典では形容動詞として読まれることはなく、接尾語「に」を付けて副詞として読まれること

表 1 「如何」の品詞分類現代語辞書と近代語辞書

品詞	近代文語		現代口語	
名詞	如何	18	如何	11
形容動詞	如何	20		0
副詞	如何に	5	如何に 如何せん	29 3
計		43		43

が多いことがわかる。

#### 4.3 クラスタ分析による卒論の構造分析の方法

先にも触れたように KHcorder には、文書の構造を分析する多変量解析の手法としては、対応分析（数量化 III 類）・クラスタ分析・多次元尺度構成法（MDS）・自己組織化マップ・共起ネットワークなどがそなわっているが、今回は探索的な分析をすることを目的としているので、出現頻度 20 回以上の名詞を対象としたクラスタ分析を行うことにした。

名詞を対象としたのは、文章の意味を最も強く規定すると考えられたからである。形容詞の場合、たとえば「美しい山」「美しい空」といった場合、おなじ「美しい」でも被修飾語の「山」「空」の方が文意を規定すると思われる。動詞の場合も同様で「空を見る」「山を見る」も語義の中心は「見る」より「空」「山」にあると言える。

クラスタ分析は、対象が持つ特性の類似度によって対象を類似した集団（クラスタ）に集め、集団全体の構造を描き出す多変量解析の方法を言う（Grim and Yarnold 2011=2016）。その場合、まず対象のもつ類似度をどのように定義するかということが問題になる。量的変数の場合、類似度は距離（ユークリッド距離、マハラノビス距離など）が使われる。しかし、自然言語のような質的データにはこのような距離によって、類似度を表すことはできない。そのかわり、自然言語では

- ① ベクトル同士の類似度 / サイン類似度・ピアソンの相関係数
- ② 集合同士の類似度 / (和集合に対する積集合の比) /  $\phi$  係数・Jaccard 係数
- ③ 文字列同士の類似度 / (文字列の距離にもとづく類似度) / ハミング距離

などを用いることできる。今回は②集合同士の類似度のうち Jaccard 係

数を用いてクラスター分析をすることにした。Jaccard 係数は一般的にも用いられる係数であるとともに、付録に考え方を示したように直感的にも理解しやすい係数であることによる。

#### 4.3 クラスター分析による卒業論の構造分析

以上のような手順で KHcorder によって形態素分析をした弘前女学校卒業論文から頻出する名詞を選び出し、Jaccard 係数によって類似度を測定し、分類したものが図 1 の樹形図（デンドログラム）である。これによると、卒

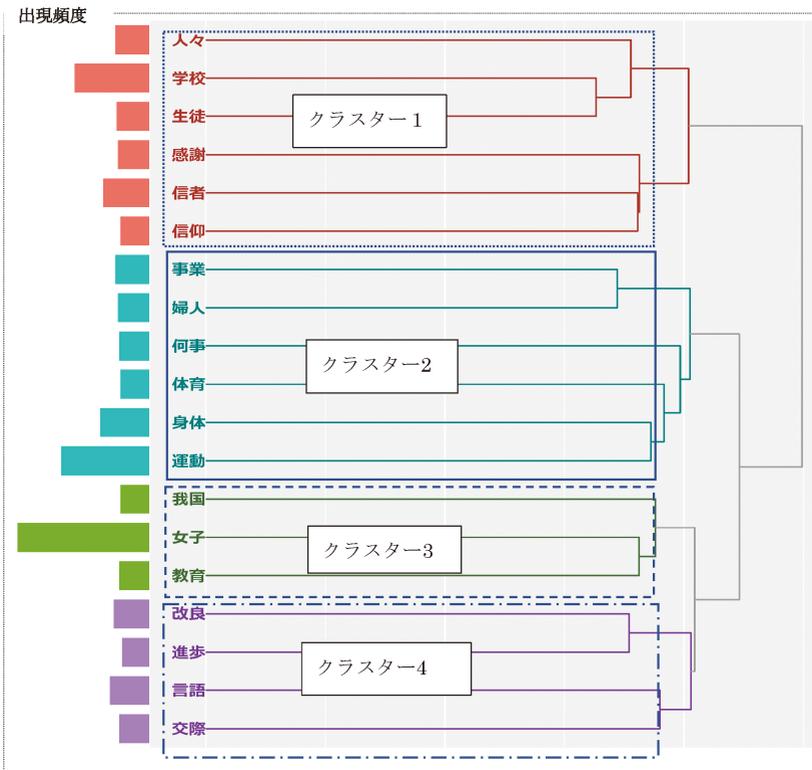


図 1 弘前女学校卒業論文クラスター分析結果（樹形図）

論に頻出する語は大きく分けて 4 つのクラスターに分類されることがわかる。以下では順に 4 つのクラスターの特徴を見ていこう。

上から順にまず「人々」から「信仰」までの 6 語からなるクラスター 1 がある。このうち「学校」と「生徒」は早い段階で結びつき、それに「人々」が結びつく。それとはほぼ同じレベルで「感謝」「信者」「信仰」が結びつき、最終的には 1 つのクラスターとなる。このクラスターに含まれる語から見て、学校におけるキリスト教教育のクラスターとみてよいだろう。

次に「事業」から「運動」のクラスター 2 では、まず「事業」と「婦人」が結びつく一方で「身体」と「運動」が結びつきこれに「体育」が合流したのち、「何事」が結びついた後、先の「事業」と「婦人」のサブクラスターと合流し 1 つのクラスターを作っている。KHcoder には、抽出語がどのような文脈で使われているかを表示する機能がある。このクラスターで現れる「事業」という言葉の使われ方をみると 24 回中 5 回が「矯風事業」または「矯風会事業」という使われ方であり、その他の用法も「・・主よ我等が改善進歩を企つる事業の上にお力を下したまへ」といった用法で、今日でいう「営利的事業」ではなく「宗教的社会事業」を意味していると考えられる。また「運動」「身体」「体育」も、明治 35 年卒論の「生徒進歩改善」のなかに「運動」という節を入れるよう指示されているらしく、ここにこれらの表現は集中してみられる。KHcoder で文脈を探れば、「健全なる智は健全なる身体にやどるとか申し 勉強のものはよろしく運動にはげむべし」「欧米の婦人はこの規律を正しく保守するか故に智体とに大に発達して今日の文明富強を来せしなり 然るにわが校にては課業時間の多きに比して運動時間甚だ少なし」といった表現で、欧米を範に知育と体育のバランスをとることが主張されている。殊に後者では、「運動時間甚だ少なし」とのべているが、この当時の本科の時間割で「体操」は週 1 時間（しかも「唱歌」との選択科目）となっていた（弘前学院百年史編集委員会 1990: 81）。したがって、このクラスター

は、女性が知育だけでなく、身体も鍛え、矯風会活動のような社会的活動に参加しておくことに触れた内容とみるとことができる。

これに対して、クラスター 3 では、まず「女性」が「教育」に結びつき、次いでこれが「国家」と結びついている。この学校が女学校であるから「女性」と「教育」が結びつくのは当然として「女子教育」がどのように国家に結びつくのか。これも KHcorder で該当する表現を拾ってみると「国家的意志を養成して 我国将来の必要に應ずると共に 女子に欠べからざるものあり」[[女子も] 須く自重の心を養ひ 自家の負担する責任の為に 単に家庭に止まらず 国家の盛衰も亦其一部分は負担せざるべからずと云ふ事の自覚せしむるを第一とす」といった表現で、女子もまた、男子と同様、日本国民の一員として行動すべきことが説かれておかれている。おそらくこの背景には、日清戦勝後のナショナリズムの高揚といった時代背景あるだろう。

最後のクラスター 4 は、「改良」「進歩」「言語」「交際」からなる。まず「改良」と「進歩」が、「言語」「交際」が結びつき、この両者が結びついて 1 つのクラスターとなる。これはこれまでも触れてきたように方言を「改良」し、幅広い「交際」を展開する必要性に触れたものと考えられる。これも該当する文例を上げると、「日用取引交際の間一寸言語をあやまるときは ために一場のはちとなり人に笑はるのみならず 取りかへしのならぬ損失を召くことあり 此の故に言語を改良せざるべからざる所以なり」。

## 6. むすび

以上のことから、弘前女学校の卒業論文のテキストマイニングからみる限り、その内容は大きく 2 つの要素からなっているものとみなすことができる。1 つはミッションスクールにおける教育によって醸成される信仰心（第一クラスター）、および心身の鍛錬によって矯風会のような社会活動に参加していくという志向性（第二クラスター）からなるもので、信仰によって自立し

た女性たちが地域社会への変革に参加していく方向性であった。それは禁酒・禁煙・廃娯を掲げた矯風会運動に見られるように、当時のメソジスト派のリスベクタビリティを地域に根づかせようとしたキリスト教文化運動でもあった。

もう 1 つは、女性も日本国民としての自覚を持ち（第 3 クラスタ）、方言を矯正して広く他の地域の人との交際する（第 4 クラスタ）という方向性であった。実際、弘前女学校からは函館遺愛女学校や青山学院へ進学した者も少なくなかったし、北米にわたり宣教師となった者もいた。また、この学校では、唱歌や讚美歌の斉唱も方言の矯正という役割をもっていたともいわれる（安田・北原 1999）。これまでも述べてきたように「想像の共同体」（Anderson 1991=1997）としての近代国民国家は、均質な言語空間である「国家語」を必要としていたのである。

最後にこの「卒論」を書くこと / 書かせることの意義を振り返りつつ、今後の課題を述べよう。弘前女学校の第 7 代校長の E.J. ヒューエットが、女子ミッション教育が危機を迎えていた明治 30 年代に、15-16 歳の少女たちにあえて「卒業論文」を書かせた意図は、おそらく書き言葉による明確な自己主張をさせることであり、それによって女性の自己表現力を高め、精神的自立を促すことにあったとみるべきだろう。それは、この卒論に書き加えられたコメントからもうかがい知ることができた。しかし、その一方でこの書き言葉にみられる方言の「矯正」は、「国家語」による近代国民国家へと地方を編入することをも意味した。均質的言語空間としての近代国民国家が成立するなかで、近代教育を通じて主体化した女性による近代家族（ホーム）が形成される。そこでは性別役割分業にもとづく家族関係が作り出され「大衆の国民化」（Mosse 1988=1994）による総動員体制への編入がおこなわれていく。この歴史の逆説をどう読み解いていくのかが、今後の大きな課題となる。

なお、ヒューエットは、弘前女学校校長を辞したのち、函館遺愛女学校校長代理を経て仙台に赴任している。そして、仙台では、フランソワ・フェルプスの作った私立自助館という「忘れられたミッションスクール」の第二代校長として、仙台の救貧活動に参画していくことになるが、このことはまた別の物語として語られることになるだろう。

## 注

- (1) 日本プロテスタントの初期教会における指導的なグループをキリスト教界では「バンド」という。札幌バンド、熊本バンド、横浜バンドがあった。このうち、横浜バンドでは、1855（安政 5）年の開港後、J.H. バラ、N. ブラウン（改革派）、J.C. ヘボン（長老派）などの宣教師が横浜に洋学塾を建てて英語を教えたりしたが、そこに学んだ青年のうち、キリスト教の教えや宣教師の人格に感化されて受洗する者が輩出した。彼らは、外国人宣教師と協力して日本最初の超教派の教会「日本基督公会」を横浜に創立した。
- (2) 明治期に始まる近代教育は、地方にも西洋文化をもたらすことで、地域の近代化に大きな影響を与えた。明治期の津軽の教育に関しては、北原（2002）による研究があり、そのなかで津軽藩の藩校・稽古館に源流をもつ東奥義塾がこの地方の近代化（洋学受容）に果たした役割が解明されている。そして、地域の発展を考えた旧藩士団と、この地方での伝導・布教をめざした宣教師との葛藤を孕んだ交流が、結果的に洋学受容による地域文化の変容をもたらしたことを明らかにしている。
- (3) なお、彼女の姓については、「ヒューエット」（岡部 2019）、「ヒューエット（綴りは Hewett）」（Krummel 1993）など混在するが、本稿では（弘前学院百年史編集委員会 1990）にしたがった。
- (4) なお、同校の生徒数にはいくつかの異なる数が記録されている。弘前学院百年史編集委員会（1990: 123-124）には、工藤教頭が就任した 1897 年の出席者数を毎日平均 90 名、98 年 100 名、99 年 150 名、1900 年 180 名としている。ただし、工藤教頭の報告として、裁縫専修科の人气が高く、1901 年の在校生徒 190 人のうち 69 人を占め、新入生 113 人のうち 53 名を占めていたという。また結婚などによる退学者も多く、1903 年には 60 名とい

う数字を挙げている。岡部（2019: 123）は、坂本町移転時（1900 年）の生徒数を 164 名、教職員数 14 名と記録している。おそらくヒューエットのあげた 68 名というのは、尋常・高等小学校、予科、裁縫専科を除いた本科生と考えられる。

- (5) それが不平等条約と言われるのは、①外国に領事裁判権を認め、外国人犯罪者に日本の法律が適用されないこと（治外法権）、②日本に関税自主権がないこと、③片務的な最恵国待遇条款を承認したこと、にある。
- (6) ただし、関税自主権については、日露戦争の戦勝後に認められることとなった。
- (7) 「一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ特立セシムルハ学政上最必要トス依テ官立公立学校及学科課程ニ関シ法令ノ規定アル学校ニ於テハ課程外タリトモ宗教上ノ教育ヲ施シ又ハ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許サルヘシ」（[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1317974.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317974.htm)）。なお、この命令が勅令（天皇の命令）ではなく、文部省の訓令という形をとったのは、1889（明治 22）年に公布された大日本帝国憲法（明治憲法）が、「安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ」という制限付きではあったが、信教の自由を認めていたためだと言われる（岡部 2019）。
- (8) ここでいう「脱連結」とは、組織におけるフォーマルな分類と日常活動の内実との乖離を指す概念である。組織では、フォーマルな分類が厳密に維持される一方で、日常活動に対する統制は緩和されていることが多い。これは学校などの制度化された組織でよく見られ、組織にとっては外部からの圧力に対して内部の活動を保護する働きをする。
- (9) そのため、このとき、青森県に出された「弘前女学校規則」の第 5 条には「女子モ徳性ヲ発達セシメン為<sup>レ</sup>附加<sup>ニ</sup>学科<sup>ト</sup>シテ基督教<sup>ノ</sup>聖経<sup>ヲ</sup>授ク」（傍点引用者）とあり、これについても許認可権を持つ青森県担当者からは難色を示されたが、校主・長谷川は誠三この一点は譲れないとして交渉に臨んだという（岡部 2019）。
- (10) ヒューエットは 1850 年生まれでアメリカで教師を務めたのち、1984 年に来日し 89 年まで函館の遺愛女学校校長を務め、その後、いったん帰国してサンフランシスコ日本人女子ホームの責任者（89-97 年）を経て再来日し、1897 年から 1901 年まで弘前女学校長を務めた（Kuranmeru 1993）。経

歴から見ても日本の女子教育や教育事情にもかなりの程度、精通していたと考えられる。

## 文献

- Anderson, Benedict, 1991, *Imagined Communities : Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*, Verso (白石さや・白石隆訳, 1997, 『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』NTT出版).
- Grimm, Laurence G. and Paul R., Yarnold, 2011, *Reading and Understanding Multivariate Statistics*, American Psychological Association, (小杉考司訳, 2016, 『研究論文を読み解くための多変量解析入門』北大路書房).
- 樋口耕一, 2020, 『社会調査のための計量テスト分析—内容分析の継承と発展を指して 第2版』ナカニシヤ出版.
- 片瀬一男, 2019, 「統制される不良少女」第92回日本教育社会学会報告.
- 北原かな子, 2002, 『洋学受容と地方の近代』岩田書院.
- , 2007, 「明治三二年弘前女学校卒業論文集」と津軽の私立女子教育」『年報日本思想史』6: 12-24.
- Kuranmeru, Jan, W., 1993, *A Biographical Dictionary of Methodist Missionaries to Japan : 1873-1993*, (『来日メソジスト宣教師事典—1873-1993年』教文館).
- Meyer, Jon and Bruce Rowan, 1977, Institutionalized Environment Formal Structure as Myth and Ceremony, *American Journal of Sociology*, 83 (2), 340-363.
- Mosse, George L., 1988, *The Nationalization of the Mass: Political Symbolism and Mass Movements in Germany from the Napoleonic Wars through the Third Reich*, HawardFertig (佐藤卓巳・佐藤八寿子訳, 1994, 『大衆の国民化—ナチズムに至る政治シンボルと大衆文化』柏書房).
- , 1996, *Nationalism and Sexuality : Middle-class Morality and Sexual Norms in Modern Europe* University of Wisconsin Press. (佐藤卓巳・佐藤八寿子訳, 1996, 『ナショナリズムとセクシュアリティ—市民道徳とナチズム』柏書房).
- 岡部一興, 2019, 『長谷川誠—津軽の先駆者の信仰と事績』教文館.
- 弘前学院百年史編集委員会, 1990, 『弘前学院百年史』弘前学院.
- 斎藤元, 2009, 『女性宣教師の日本探訪記—明治期における米国メソジスト教会の

明治 30 年代・弘前女学校卒論のテキストマイニング

海外伝道』新教出版。

佐藤八寿子, 1998, 「リスペクタビリティとは何か」『教育・社会・文化—研究紀要』  
5: 75-84.

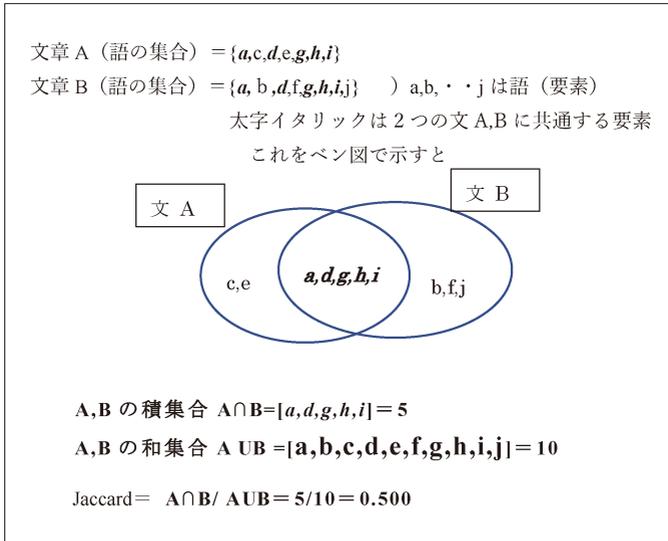
土山玄・村上征勝, 2014, 「語の使用頻度の計量分析による宇治十帖他作者説の検討」  
『情報処理学会研究報告』 Vol. 2014. CH-94, No. 5: 1-8.

東北学院百年史編集委員会, 1989, 『東北学院百年史』東北学院。

安田寛・北原かな子, 1999, 「弘前女学校の音楽教育」『弘前大学教育学部紀要』  
82: 87-95.

付録

Jaccard 係数 (和集合に対する積集合の比)



Jaccard 係数は、2 つの集合に含まれている要素のうち共通要素が占める割合を表しており、これが大きいほど 2 つの集合の類似度は高い